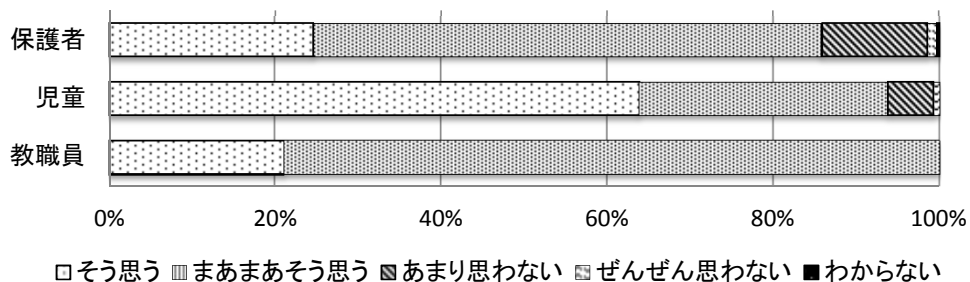
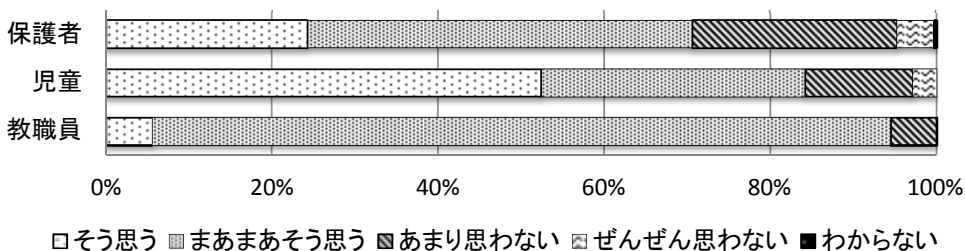


I かがやく子について ～夢につなげる主体的な学びと確かな学力～

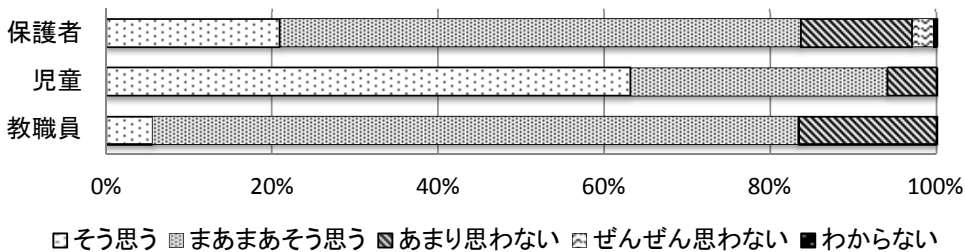
1. めあてをもち自分らしく進んで学ぼうとしている



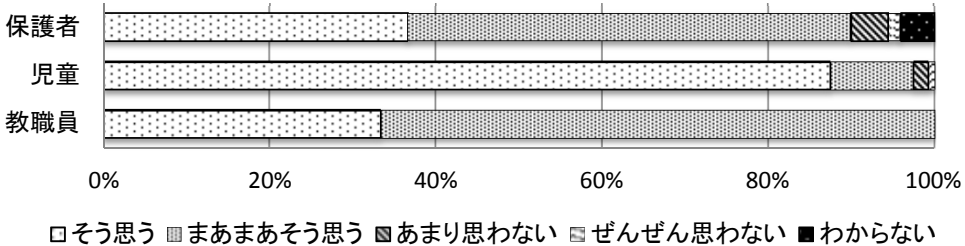
2. 家庭学習の時間が定着してきている



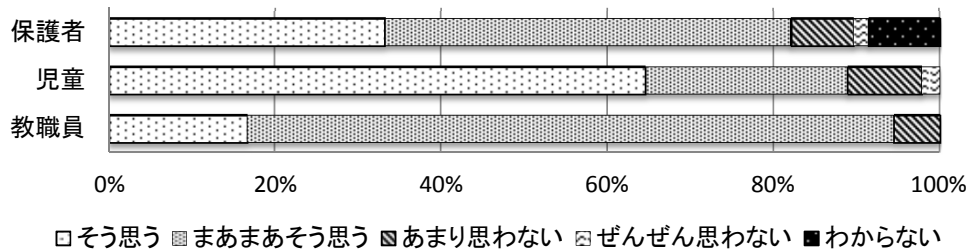
3. 学校で学習した内容を分かっている



4. 先生たちは子どもに寄り添い熱意をもって学習指導をしている

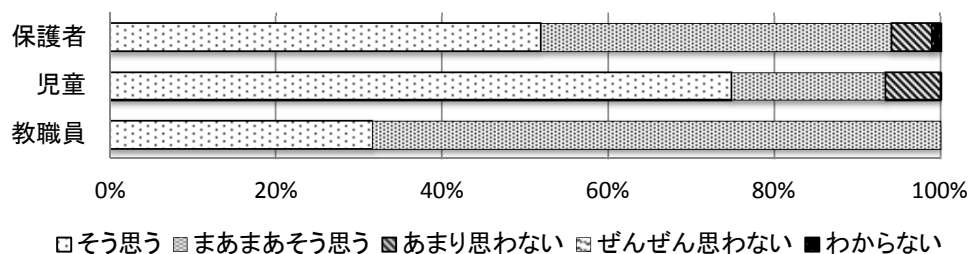


5. 先生たちは質問したり相談したりしやすい雰囲気づくりに努めている

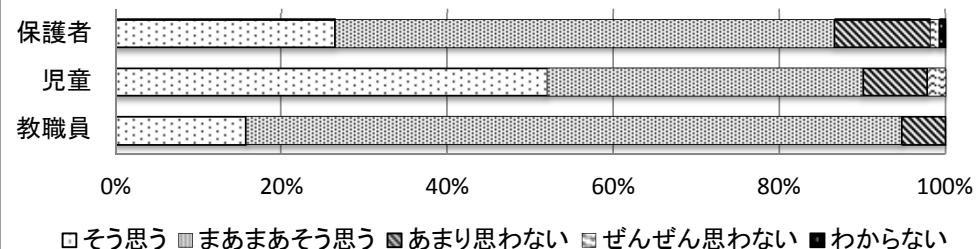


II やさしい子について ～夢をもたせる豊かな心～

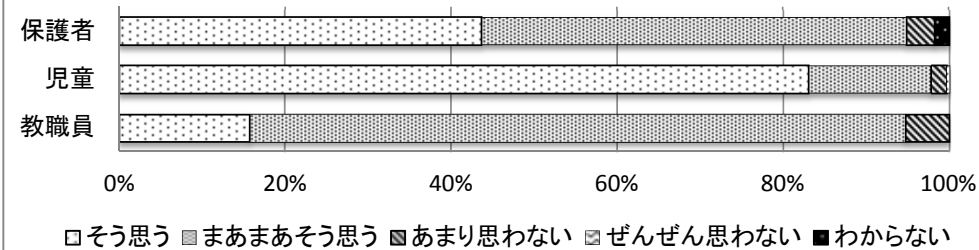
6. 学校での毎日が楽しいと感じている



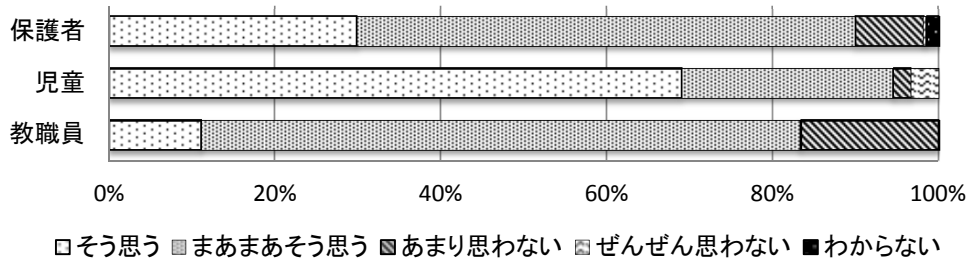
7. 自分がもっているよさを発揮している



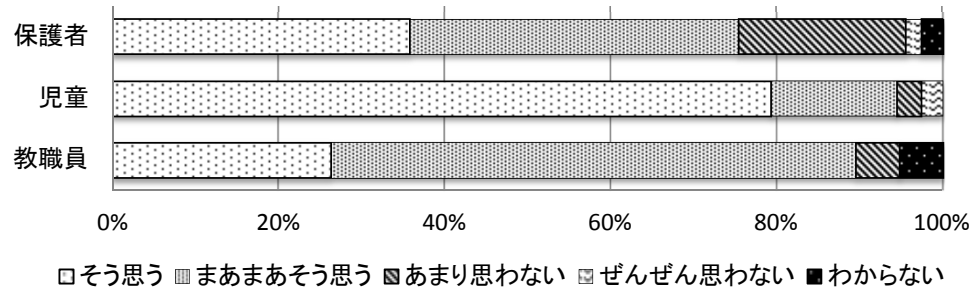
8. 友だちとのかかわりを大切にして学校生活を送っている



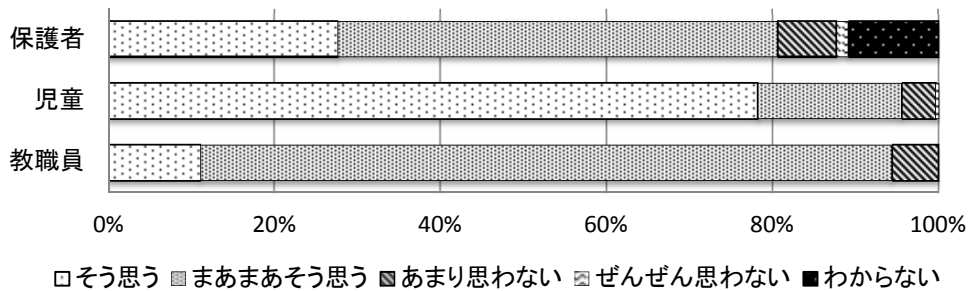
9. 「家の人から認められている」と思っている



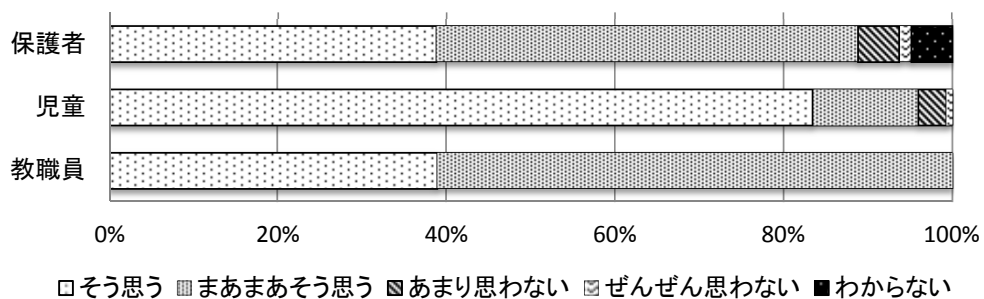
10. 子どもは将来の夢や目標をもっている



11. 子どもに夢(めあて)をもたせ、子どものよさを伸ばす指導をしている

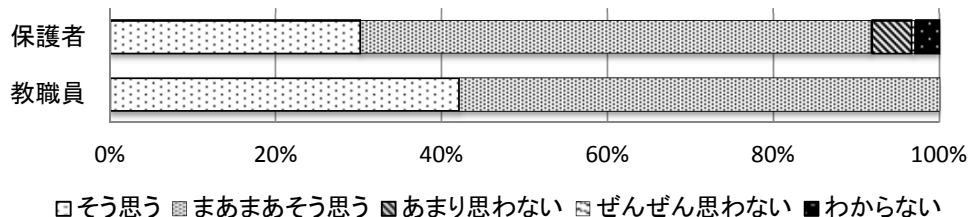


12. 子どもに寄り添い、成長を願い、生活指導をしている

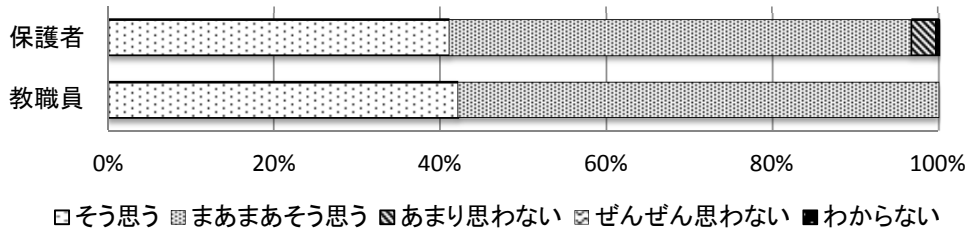


Ⅲ 学校全体について

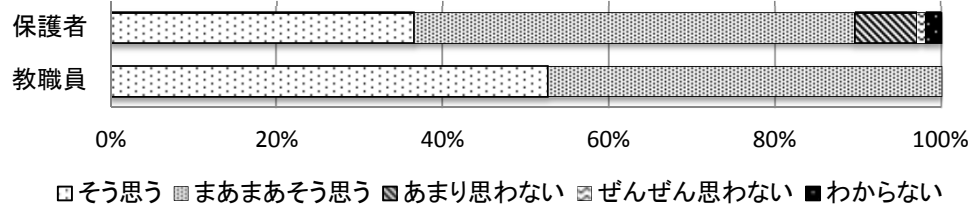
13. 学校全体で努力していこうとする姿勢が感じられる



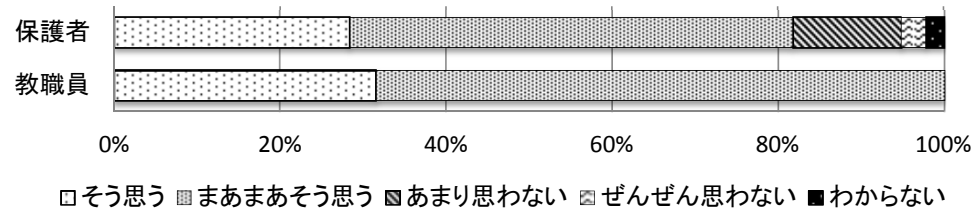
14. 学校の方針等を定期的に伝えている



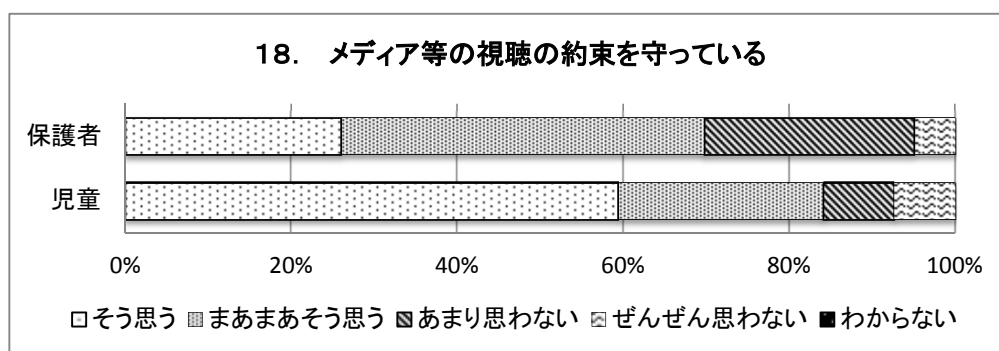
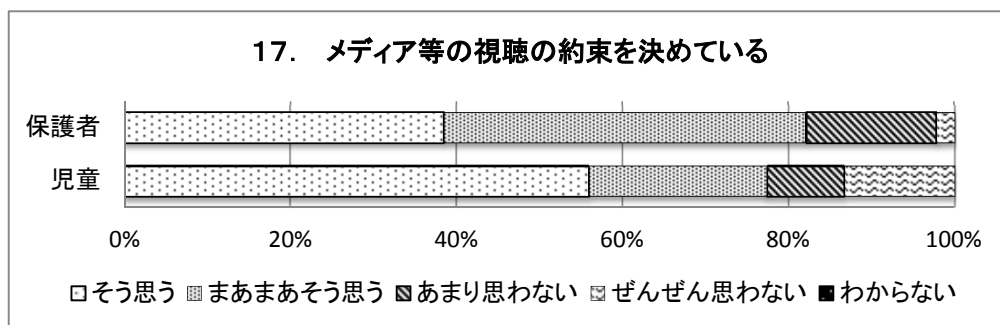
15. 「来校しやすい雰囲気」づくりに努めている



16. 教室や校舎内外の環境整備に努めている



Ⅲ メディアの視聴・利用について



平成28年度 第1回学校運営アンケート

◇ アンケート結果から ◇



I かがやく子について～夢につなげる主体的な学びと確かな学力～

◇ ①の「自分の子どもは、めあてをもち、自分らしく進んで学ぼうとしている。」については、児童、教職員、保護者とも肯定的評価が全体の80%を超え、概ねよい評価になりました。特に、児童の自己評価の数値は各学年とも85%以上で、子どもがめあてを確かめながら、意欲的に学習に向かっていることが分かりました。

本校では、授業の始めに学習の「めあて」を確認し、授業の終わりには「まとめ」を行い、楽しい授業、分かる授業の展開を工夫しています。また、少人数学習やティームティーチング（Team-Teaching を略してTTと言う。）など指導体制の充実を図り、子ども一人一人に応じた学習支援に取り組んでいます。これからも児童の実態や学習内容に応じて、習熟度別学習などの学習形態を取り入れ、子ども自身が主体的に学習に取り組んで行くような授業改善を進めていきたいと考えています。

◇ ②の「自分の子どもは、家庭学習の時間が定着してきている。」については、保護者・児童・教職員の肯定的評価が70.6%・84.1%・94.5%と、昨年度より0.6～8.8ポイント高くなりました。

本校では、学習推進部を中心に、読み・書き・計算などの基礎的・基本的学習内容の定着をねらいとする「家庭学習の習慣化」を具体的な実践事項として継続実践してきました。「家庭学習ノートリレー」「家庭学習ノート展」「家庭学習のめやす時間の設定」など、様々な取組を通して、家庭学習を軸に主体的な学習習慣の形成を図っていききたいと考えています。質・量ともに充実した家庭学習になるように、家庭と連携した取り組みをさらに進めていきたいと思ひます。

◇ ③「自分の子どもは、学校で学習した内容を分かっている。」、④「先生たちは、子どもに寄り添い、熱意をもって学習指導をしている。」、⑤「先生たちは、学習で分からないところを質問したり相談したりしやすい雰囲気づくりに努めている。」については、肯定的評価が保護者①83.6%④90.0%⑤82.1%，児童③94.1%④97.5%⑤89.0%となり、概ねよい評価となりました。

子どもたちが学びの楽しさを実感し、主体的に学習に取り組むことができるよう、これからも「わかる授業」「楽しい授業」の実践に努めてまいります。子ども一人一人のよさが引き出され楽しく生き生きと学習活動ができるように、個人差に応じた少人数学習やTTによる指導をさらに工夫し、指導者が複数いることのよさを生かす授業づくりに努めたいと思ひます。また、授業中のみならず、いつでも子どもの声に心を傾け、子どもが安心して何でも話せる環境づくりに心がけていきたいと思ひます。



II やさしい子について ～夢をもたせる豊かな心～

◇ ⑥の「自分の子どもは、学校での毎日が楽しいと感じている。」の項目では、保護者アンケートの肯定的評価が94.1%，児童アンケートの肯定的評価が93.3%でした。特によかったのが、保護者の「そう思う」と答えた割合で、昨年度49.3%から51.9%に増えました。

2学期も引き続き、子どもたちが教師や友達・地域の人々など、学校教育に関わる多くの人とのかかわりの中で、所属感や自己有用感をもち、互いに認め合い、協力し合えるように、教育活動の一層の充実を図っていききたいと考えています。

◇ ⑦の「自分の子どもは、自分がもっているよさを発揮している。」については、保護者・児

童・教職員とも86%を超える肯定的評価となりました。

本校では、子ども一人一人がかけがえのない存在として自他を認め、互いの違いを尊重し信頼し合う学級づくりを目指しています。そのため、子どもたちが自分のよさや可能性を実感できるような取組を、各学年の発達段階を踏まえながら計画的に進めています。いろいろな機会に、その取組がご家庭に伝わるよう情報提供の在り方を工夫していきたいと思ひます。

- ◇ ⑧の「自分の子どもは、友だちとのかかわりを大切に学校生活を送っている。」については、児童97.8%、保護者94.8%と高い評価をいただきました。

学校経営「五小ブランド」の中で、「夢に向かって磨く豊かな心」として、人間的な触れ合い深める集団活動や体験的な活動の充実を重点事項の一つに掲げています。相手の思いに共感し、相手の考えを理解する「かかわり合い」を大切にした「清掃活動」「集会活動」「クラブ活動」「縦割り班活動」等を通して、表情豊かに交流したり、仲よく協働で活動に取り組んだりする子どもの様子が以前にも増して見られるようになってきました。このような取組が「学校が楽しい」と感じる子どもの増加につながっているものと考えます。今後も「かかわる・つながる・やり抜く」をキーワードに、学校内だけでなく、地域にある教育資源を生かした体験的な活動を一層強めていきたいと考えています。

- ◇ ⑨の「自分の子どもは『家の人から認められている』と思っている。」については概ねよい評価でした。

児童の94.5%が肯定的評価をしていることから、家庭でのかかわり合いが十分に行われ、子どもが自己有用感を高めていることが分かりました。ただ、若干の子どもが否定的な評価をしていることから、学校では、子ども一人一人のよさを認め、伸ばしていくことができるよう積極的な声掛けや働きかけを行うとともに、引き続き家庭との連絡・連携を密にしていきたいと考えています。

- ◇ ⑩「自分の子どもは、将来の夢や目標をもっている。」について、保護者アンケートでは肯定的評価が75.4%とやや低めでしたが、児童アンケートでは94.4%と高い結果となりました。

⑪「先生たちは、子どもに夢（めあて）をもたせ、子どものよさを伸ばす指導をしている。」

⑫「先生たちは、子どもに寄り添い、成長を願い、生活指導をしている。」については、保護者⑪80.6%⑫88.8%、児童⑪95.5%⑫95.9%と概ねよい評価でした。

学校教育目標「夢高く 心たくましく 学び合う五小の子」には、子ども一人一人が夢をもち、その実現に向けて明るい未来を切り開き、たくましく生き抜いてほしいという願いが込められています。グローバル化・情報化が急速に進む今日、夢に向かってチャレンジし、新しい自分を創造していく基礎となる力をしっかり身に付けることが、義務教育段階ではとても重要だと考えています。教職員一丸となって子どもたちを育ててまいりますので、ご家庭でも、将来の夢について話題にしたり、励ましたりしてくださるようお願いいたします。

Ⅲ 学校全体について

- ◇ ⑬「学校全体で努力していこうとする姿勢が感じられる。」と⑭「来校しやすい雰囲気づくりに努めている。」については、保護者の肯定的評価が90%前後と高い評価をいただきました。

⑮「学校の方針等を定期的に伝えている。」については、96.6%でした。

学校報「あさひ台」・校長室だより「校長室の窓から」や、学年・学級通信及び各種通信などで、今後も子どもたちの活動や学校経営方針、教師の思い等をしっかりと家庭や地域に発信していきたいと思ひます。

- ◇ ⑯の「(建物は古くなってきているが) 教室や校舎内外の環境整備に努めている。」については、肯定的評価が81.8%でした。

本校校舎は昭和43年に完成したもので、大変古くなっておりますが、町教育委員会と継続的に連絡を取り合い、計画的によりよい学習環境の整備に心がけています。児童の安心・安全が最優先ですので、事故防止のためにも日常の安全点検をしっかり行い、修繕や清掃活動

などに一層力を入れながら大切に使用しております。

町では、五城目小学校の老朽化による教育環境の悪化に伴い、将来の五城目町を担う子どもたちの健やかな成長のため、学校改築を計画しています。

Ⅳ メディアの視聴・利用について

◇ ⑰「メディア視聴・利用の約束を決めている」、⑱「メディア視聴・利用の約束を守っている」については、肯定的評価が保護者⑰82.1%⑱69.0%、児童⑰77.4%⑱84.1%となっています。昨年度と比べると1.6～6.4ポイントも評価が低くなっています。家庭によっては、保護者と子どもとの間に認識のズレがあるようですので、今一度親子の対話により各家庭でのルールを確かめていただきたいと思います。

国や県の学力学習状況調査の児童質問紙調査によると、本校の児童はここ数年「テレビ等の視聴時間」が長く、一日（月～金）に3時間以上の子どもの半数近くいることが明らかとなっています。また、4時間以上の子どもの23.5%もいます。これは、全国や県の平均と比べるとかなり高い割合を示し、本校児童の生活課題の一つとなっており、平成28年9月30日付けで町教育委員会と町校長会の連名で改善依頼を呼びかけております。

豊かな心の育成に欠かせない基本的な生活習慣の一つとも言える「メディアの視聴・利用時間」の改善については、児童の学習習慣・学力向上につながるものと考えています。本校では、平均一日2時間以内を目安に指導していますので、改めてご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

Ⅴ まとめ

◇ 今回の保護者アンケートの回収率は全体で97.1%でした。お忙しい中ご協力くださいました。本当にありがとうございました。

今回の中間評価では、各項目において概ねよい評価をいただきました。特に、家庭学習の取組については、「家庭でも意欲的に取り組む様子が見られます」「毎週ミニテストがあるので、家庭での学習も定着してきているのでは」などの意見が寄せられました。今後も引き続き、子ども一人一人に寄り添った家庭学習の在り方を工夫していきたいと考えています。ご家庭でも、子どもたちへの声掛け、励ましをよろしくお願いいたします。

◇ また、「もっと友だちとかかわりをもってほしい」「人を思いやる気持ちを育ててほしい」というようなご意見もありました。

本校では学年・学級の活動の他に、全校縦割り班で「ゆめ集会」や人権の花植栽式やなべっこ、スピーチ集会や外清掃など様々な活動を通して異学年の交流を図るとともに、「思いやる心」を最重点にした道徳教育を展開しています。こうした活動は、上級生が下級生のお世話をしたり、学年が違う友だちとなかよくかかわったりするよい機会となっています。このように、思いやりの気持ちをもって接することができるやさしい子を育てるために、児童のかかわりを多くするようしっかりと取り組んでまいりますので、些細なことでも何かありましたらまずは学校へ情報をお寄せください。

◇ 第2回学校運営アンケートについては、平成28年12月14日（月）から実施する予定です。これからも学校からの情報発信を積極的に行い、「家庭・地域社会と共に歩む、社会に開かれた学校」をめざして経営に努めてまいります。今後とも、どうかよろしくお願いいたします。

VI 学校関係者評価委員会から（感想・意見等）

【あいさつに関すること】

- あいさつは心の面の充実につながると思います。大人も子どもも普段からあいさつをするようにしたいものです。大人が範を示すことで子どもも自然にあいさつをするようになるのではないのでしょうか。お互いに意識をしてすすんであいさつをするようにしましょう。学校に来る大人に対しても自然な形であいさつができるようになるといいですね。

【親子のコミュニケーションに関すること】

- 子どもは学年が上になるにつれて、親との対話が減っていきがちであるので、低学年の時こそ親子のコミュニケーションを重視してほしいと思います。家族で何かをする中で、コミュニケーションをするようにアクションを起こしてほしいと思います。子どもと何かを作ったりすることは、創造力がつくことにもつながるし、他の人との会話にもつながっていくと思います。コミュニケーションをとるには、人の話をしっかり聞くことが前提条件です。聞く力が大事だと思います。

【子どもの姿に関すること】

- 子どもたちの遊ぶ様子を見ていると、友だちがいてもゲームなどを別々にやっている場合があります。対戦型でやるなど、一緒に遊ばせたいと思います。コミュニケーション能力が大切だと思います。
- ゲームを親に隠れてやっているようです。実際はどのくらいやっているかわかりません。インターネットなどは、調べ学習に生かしてほしいが、やはりゲームや娯楽で使っています。
- メディア視聴は時間だけで判断するのではなく、何を見ているのかが大切だと思います。何かを調べるためなのか娯楽なのか、能動的なのか受動的なのか。メディアは使わせないということではなく、実際にあるということを前提にして、どのように使っていったらよいのかを考えていかなければいけないと思います。
- 子どもに非認知能力（ペーパーテストや数値で測ることができないもの。例えば、協調性や忍耐力、計画性、心身の健康など、学びに向かう力や姿勢、生きるためのスキル）を身に付けるには、周りの大人がどう対応するかが大切です。親がすぐに反応しない、答えを出さないということも時には必要です。いろいろなことを考えさせて、「なぜ」「どうして」と意識する（問いを発する）子どもを育てたいものです。普段の生活をきちんと根気強くやることで、生きる力を身に付けていくのだと思います。
- 学年が上がると家庭学習の時間が減るのは、スポ少の影響ではないのでしょうか。体力もつけていかなければならないけれども、家庭学習の時間を確保させたいと思います。

お忙しい中、アンケートにご協力くださりましてありがとうございました。学校・家庭・地域との連携・協働を強め、課題解決に向かって努力してまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



（文責 校長 戸部裕隆）